

樹木と絵画の交差点

第4回 ～モネとポプラ～

クロード・モネ（1840-1926）は、フランス印象派を代表する画家です。モネは屋外に出て自然を目の前にして制作をし、時間とともに移ろう光を描きました。1883年からジヴェルニーに居を構え、丹精込めた庭園を造り、画業のかたわら庭仕事に熱中しました。自庭の池の睡蓮をモチーフにした連作は有名です。



印象派の画家たちは、速く描いた筆のストローク、明るい色彩の使用、大胆な構図など伝統にとらわれない手法によって当時の西欧絵画に革命を起こしました。晩年モネが描いた睡蓮の巨大な絵画は、のちの抽象絵画の先駆けともいわれます。

絵画理論を嫌い、めったに芸術を語ることがなかったモネですが、その分「見ることを大切にして絵画制作の実践を続けました。その探求について、ポール・セザンヌは「モネは眼にすぎない、しかし何と素晴らしき眼なのか」と評しました。一心に視覚を追及するモネの姿勢は際立っていて、同時代の画家に尊敬される存在でした。

クロード・モネ（1840-1920）

「ベレー帽をかぶった自画像」(部分) (1886年) 個人蔵

見ることと描くことに対する執念を持ち続け、晩年白内障で視力を落としてからも数々の名作を描いた。

ポプラのある風景

モネの生涯のテーマである「光の追究」は様々な連作によって表現されました。

モネにとってポプラは光を表現する格好のモチーフでした。



ポプラ、アルジャントウイユ近郊
(1875年) ボストン美術館蔵



夏、ひなげしの草原
(1875年) 個人蔵

モネは30代の頃にパリの北西のアルジャントウイユに住み、周辺の自然を好んで描きました。ここは何度かモチーフになった、モネお気に入りの草原の風景です。春の湿気を含んだ空気（左作品）と夏の強い日差し（右作品）が見事に描き分けられています。当たる光の方向によって変わるポプラの葉っぱの量感や色、画面に充溢する光の量、空の透明感や雲からも季節が伺えます。



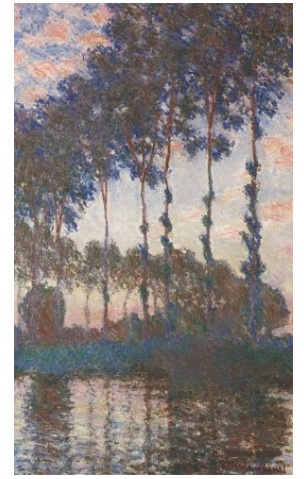
陽を浴びるポプラ並木
(1891年)
国立西洋美術館蔵



風の効果、ポプラ並木
(1891年)
オルセー美術館蔵



エプロンのポプラ並木、日没の効果
(1891年)
個人蔵



ポプラ並木、日没
(1891年)
個人蔵

1891年に約20点のバージョンの「ポプラ並木」連作が制作されました。

水面に映る澄んだ青空、夕日に染まるポプラの樹冠、風にさざめく水面、日が落ちた時の一瞬の雲の色など、同じ場所であってもその瞬間にしかない美しさを画面に閉じ込めています。

画面を縦に走るポプラの幹のラインと、そこを斜めに横切る後景のポプラ並木のカーブ、画面下部の水面がしっかりとした構成をなして、縦長のキャンバスに安定感を与えます。

モネがこの連作に賭ける意気込みは相当なものでした。絵を描く際に小舟を停泊させるのに必要な島の所有者になり、また、制作中に沼の共有地が競売にかけられた際には、絵が仕上がる前にポプラ並木が伐採されないようにと、木の所有者となった商人にかなりの金額を支払ったと言われます。

ポプラについて



セイヨウハコヤナギ
撮影場所：小石川植物園
(東京都文京区)

※樹名板は「イタリアヤマナラシ」

ポプラ（ヤナギ科ヤマナラシ属）というと、日本ではセイヨウハコヤナギ（イタリアヤマナラシ；*Populus nigra* var. *italica*）とカロリナポプラ（*Populus tremuloides*）が思い浮かぶのではないのでしょうか。セイヨウハコヤナギは樹高が高くスマートなほうき状の樹形で、北海道では並木、農地や牧草地の境界木などとして植えられ、独特の景観をつくっています。カロリナポプラは都市緑化樹木として街路や公園などに植えられてきましたが、最近は新植されることはあまりないようです。

ポプラは浅根性で風に弱く、また成長が早いために、大木になると年を経るにつれて枝や幹が折れやすく、材が腐朽しやすいといった弱点が出てきます。樹齡を重ねたものは倒木の危険が高くなるので、植栽環境を踏まえた適正な管理が必要です。

北海道大学の有名なポプラ並木は1912年（明治45年）に植樹されました。2004年（平成16年）9月に発生した台風18号により

並木の約半数が根元から倒れるなどしましたが、この倒木した木材は再利用され、鍵盤楽器チェンバロが作られました。北海道大学総合博物館では、このポプラチェンバロの演奏会がたびたび開かれています。

《参考文献》

シルヴィ・パタン著 高階秀爾監修 渡辺隆司、村上伸子訳「モネ－印象派の誕生」創元社 1997年（「知の再発見」双書67）

矢口行雄監修「樹木医が教える緑化樹木事典 病気・虫害・管理のコツがすぐわかる！」誠文堂新光社 2009年

《参考 URL》

北海道大学総合博物館ホームページ ポプラチェンバロのコンサート

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/publicevents/18437/>（参照 2016-06-15）